

# ウメト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他( )

2020 年 11 月 5 日 担当者：権野

## 「アールプラスジャパン」

### リントックなど3社参画

サントリーホールディングスなどが共同出資する「アールプラスジャパン(東京都港区)」に、ラベル素材・インキ大手3社が新たに資本参加する。使用するプラスチックのケミカルリサイクルに取り組むもので、素材から容器包装・最終製品メーカーまでが連携。2027年までの実用化を目指す。

今月2日、ラベル素材大手のリントック、パッケージ用インキ大手の東洋インキSCホールディングスとサカタインクスが相次ぎ参画を発表した。米バイオ化学ベンチャー、アネロテック社が開発したケミカルリサイ

クル技術「Plas-T Cat」への技術支援・活用を図る。使用するプラからプロピレン・キシレンなどを直接生成できる技術で、従来の油化工程を経るケミカルリサイクル法よりフローを短縮化。PETボトルを含む廃プラを原料としてより多く効率的に活用できる。リントックは、これまでに展開してきたメカニカルリサイクルPETを使用したラベル素材などに

加え、基材の選択肢・供給源を拡大する狙い。

東洋インキグループも、環境調和型・リサイクル適性向上型製品を開発してきたなかで「再資源化」を新たな切り口として盛り込みたい構えだ。サカタインクスは、インキ原料の一部としての再生原料の活用などを模索。ポタニカルインキなどに次ぐ環境配慮型製品の新たな柱を探索するという。

アールプラスジャパンは今年6月、サントリーなど12社の出資で設立。今回は3社のほかに三菱

ガス化学や日清オイリオなどが参画するとみられ、粗原料・原料・容器包装・消費財の各工程での連携強化が目指される。

## 国産ナフサ、2割上昇 7~9月 需要回復で2四半期ぶりに値上がり

環境エネ・素材

2020/11/4 18:26 | 435文字 [有料会員限定]

保存 共有 印刷 画像 ツイート Facebook その他

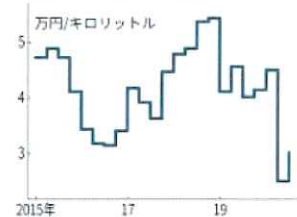
合成樹脂など石油化学製品の基礎原料となるナフサ（粗製ガソリン）の国産価格が上昇した。7~9月期は1キロリットル3万2000円と、4~6月期に比べ5200円（20.8%）高い。値上がりは2四半期ぶり。新型コロナウイルス禍から経済の立ち直りが早かった中国で石化需要が回復し、ナフサ価格も上昇したことを映した。

国産ナフサの価格は四半期ごとの平均輸入価格に連動して決まり、合成樹脂など化学品の国内取引の指標となっている。

アジア市場のスポット（随時契約）価格はコロナ禍で需給が緩んだことを背景に4月に1トン200ドルを割り込んだ。その後持ち直し、7月以降は400ドル前後で推移する。原油相場の上値が重い半面、中国のフィルムや包装資材といった石化製品需要が堅調で化学プラントが高い稼働を維持しているためだ。

ナフサのスポット価格や外国為替相場の動きから、10~12月期は7~9月期に比べ2000円前後上昇する見込み。国内の合成樹脂各社は値上げを表明しており、需要家との交渉を続けている。

国産ナフサは2四半期ぶりに上昇



画像の拡大

# ウメト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他(雑野)

THE CHEMICAL DAILY

担当者：

## 化学工業日報

2020年(令和2年)

11月5日 木曜日

第24409号(日刊・土・日・祝日除く)

### 水系エマルジョン樹脂

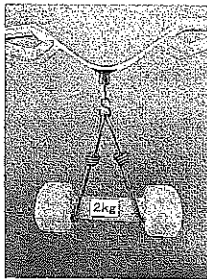
# プラ基材に高密着性

## インキや粘着剤に提案

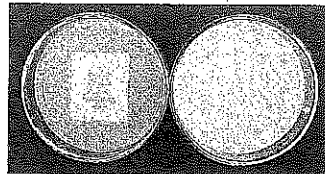
### ハリマ化成グループ

ハリマ化成グループは、プラスチック基材に高密着性を発揮する水系エマルジョン樹脂を開発した。トール脂肪酸を交差させ、アクリル系微粒子の表面に付加、親和性を向上させた。独自の技術により乳剤剤を使わず、粒子径を約100ナノメートル、高レベルの性能も実現した。水系インキのバイナリ用途では、プラ基材に対して従来にはない密着性を確認し、開発した高100億回規模の事業に資する方針だ。

プラスチック基材の中でも、トール脂肪酸を添加し、水をはじきやすくする接触角を下げる。さら



PP板の耐荷重試験では2kgfまでの耐荷重を確認



同社では、これまで環境への配慮から、二酸化炭素の高い水系インキ用途をターゲットに開発を進めてきた。バイナリ樹脂として、顔料、顔料分散樹脂と合わせることで、プラ基材に対してこれまでになく密着性を確認して

いる。水系インキは、ラベリングに加え、フレキシブル印刷で、食品包装などのフィルムへの適用が期待されている。水性インキのバリエーションを拡大し、紙への印刷も増加すると思われる。欧州に加え、中国での市場拡大も見込まれる。同社は、従来のロータリーインキ印刷機に、ハリマ化成の「ハリマ化成」のインキを適用する。日本および欧州のインキメーカーですでにインキワークを進めている。今後、二酸化炭素削減の観点から、試験も良好な結果となる。また、中東、インドへのアプロードにも取り組んでいく計画だ。水系粘着剤用途も、野菜に入れて、同用途を想定した耐荷重試験を実施。ハリマ化成は、2kgfの重量を押し、ポリプロピレン(PP)板同士が貼り合わせられる。同用途に、ハリマ化成の「ハリマ化成」を添加することで、粘着剤に適用できる。今後、同用途に合わせたチューニングも推進していく。同社は、自社技術の用途を自ら限定せず、機能を切り出して顧客のニーズとの合致を模索する方針を打ち出している。「ケミカル マテリアル」の部だ。

Japan 2020

「ハリマ化成」を通じて水系エマルジョン樹脂も、さまざまな用途を検討していく考え。

同展示会では、高層階粘着剤なども紹介。耐粘着性を高めることで、水漬ける、接着を解除するといった特性を持つ。研究開発の「ハリマ化成」も、具体的な用途を模索していき、「ハリマ化成」部だ。

2020年9月 紙・板紙需給速報

問い合わせ先：日本製紙連合会 紙・板紙部(03-3248-4803)

<単月>

(単位：千トン、%)

		生産		出荷計				在庫	(参考)輸入*			
		前年比	前年比	国内出荷	輸出	前年比	前年比		前年比	前年比		
											前年比	前年比
9月	紙・板紙計	1,935	▲9.3	1,932	▲8.4	1,771	▲11.1	160	+37.0	2,071	68	▲48.3
	紙計	930	▲18.8	937	▲17.1	880	▲16.8	57	▲22.0	1,291	50	▲53.1
	新聞用紙	168	▲13.5	171	▲10.6	171	▲10.6			206	0	+87.6
	印刷・情報用紙	504	▲22.1	509	▲19.3	475	▲18.5	34	▲28.2	778	47	▲53.3
	非塗工紙	128	▲21.2	133	▲15.6	126	▲14.6	8	▲30.1	235	3	▲33.2
	塗工紙	281	▲22.6	282	▲20.4	257	▲19.8	25	▲26.4	399	11	▲79.7
	情報用紙	96	▲21.9	94	▲20.7	92	▲20.2	1	▲44.6	144	33	▲17.8
	包装用紙	56	▲23.8	61	▲15.7	45	▲21.5	16	+6.4	110	0	+6.9
	衛生用紙	155	▲1.6	143	▲14.5	143	▲14.5	0	+149.0	91	1	▲67.2
	板紙計	1,004	+1.7	995	+1.7	891	▲4.6	103	+136.1	780	19	▲29.4
	段ボール原紙	845	+5.6	833	+5.2	732	▲2.5	101	+146.5	537	3	+5.4
	白板紙	105	▲13.4	106	▲12.3	104	▲12.2	2	▲15.8	157	15	▲35.9
	グラフィック用紙	673	▲20.1	680	▲17.2	646	▲16.6	34	▲28.2	984	47	▲53.1
	パッケージング用紙	1,107	▲2.3	1,108	▲1.0	982	▲6.5	126	+81.8	995	20	▲28.6

[概況]

- 紙・板紙の国内出荷は前年同月比11.1%減、14ヶ月連続の減少。グラフィック用紙は16.6%減、46ヶ月連続の減少。パッケージング用紙は6.5%減、12ヶ月連続の減少。衛生用紙は14.5%減、5ヶ月連続の減少。主要品種は減少。
- 紙・板紙の輸出は前年同月比37.0%増、9ヶ月連続の増加。グラフィック用紙は28.2%減、6ヶ月連続の減少。パッケージング用紙は81.8%増、10ヶ月連続の増加。グラフィック用紙は塗工紙を中心に東南アジア向けが減少。パッケージング用紙は段ボール原紙を中心に東アジア向けが増加。
- 紙・板紙の在庫は前月比3千トン増、4ヶ月ぶりの増加。グラフィック用紙は8千トン減、前月の増加から減少。新聞用紙、印刷用紙とも減少。パッケージング用紙は1千トン減、4ヶ月連続の減少。段ボール原紙は増加も、包装用紙、工業用雑種紙が減少。衛生用紙は12千トン増、2ヶ月連続の増加。

<累計>

(参考)		生産		出荷計				在庫	(参考)輸入*			
		前年比	前年比	国内出荷	輸出	前年比	前年比		前年比	前年比		
	紙・板紙計	16,928	▲11.5	16,958	▲9.6	15,768	▲11.2	1,191	+18.8	2,071	696	▲27.7
	紙計	8,346	▲18.7	8,445	▲16.0	7,895	▲15.9	550	▲17.0	1,291	495	▲33.7
	新聞用紙	1,546	▲16.3	1,562	▲13.5	1,562	▲13.5			206	2	+153.2
	印刷・情報用紙	4,347	▲24.2	4,430	▲20.8	4,089	▲21.0	340	▲18.5	778	460	▲35.3
	非塗工紙	1,166	▲19.6	1,192	▲16.9	1,128	▲16.2	64	▲27.1	235	25	▲29.8
	塗工紙	2,348	▲26.9	2,361	▲24.2	2,104	▲25.1	257	▲16.1	399	140	▲61.5
	情報用紙	833	▲22.3	876	▲16.1	857	▲16.0	19	▲17.8	144	295	▲5.8
	包装用紙	564	▲17.1	585	▲11.6	452	▲14.1	133	▲2.1	110	5	+2.7
	衛生用紙	1,379	+1.0	1,352	▲1.5	1,351	▲1.5	1	+81.3	91	18	▲5.3
	板紙計	8,582	▲3.2	8,513	▲2.3	7,872	▲5.9	641	+88.7	780	201	▲7.2
	段ボール原紙	7,134	▲0.9	7,057	▲0.1	6,439	▲4.5	618	+93.7	537	32	+0.1
	白板紙	932	▲14.3	941	▲11.5	918	▲12.0	22	+14.1	157	162	▲8.3
	グラフィック用紙	5,893	▲22.3	5,991	▲19.0	5,651	▲19.1	340	▲18.5	984	462	▲35.2
	パッケージング用紙	9,656	▲5.2	9,615	▲3.7	8,765	▲6.8	849	+45.5	995	216	▲6.7

[主要品種]

- 新聞用紙の国内出荷は前年同月比10.6%減、35ヶ月連続の減少。
- 印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比18.5%減、14ヶ月連続の減少。非塗工紙、塗工紙、情報用紙とも減少。輸出は28.2%減、6ヶ月連続の減少。
- 包装用紙の国内出荷は前年同月比21.5%減、18ヶ月連続の減少。未晒、晒とも減少。輸出は6.4%増、前月の減少から増加。
- 段ボール原紙の国内出荷は前年同月比2.5%減、12ヶ月連続の減少。輸出は146.5%増、10ヶ月連続の増加。
- 白板紙の国内出荷は前年同月比12.2%減、14ヶ月連続の減少。高板、特板、コート白とも減少。
- 衛生用紙の国内出荷は前年同月比14.5%減、5ヶ月連続の減少。トイレトペーパー、ティッシュペーパーは減少、タオル用紙は増加。

- (注) 1. 国内工場の生産高・出荷高・在庫高による。  
 2. 紙計は「その他の紙」、板紙計は「白板紙以外の紙器用板紙」、「その他の板紙」を含む。  
 3. 輸入\*は8月、1-8月

# ウメト インフォメーション

2020年 11 月 5 日 担当 小松

## セバシン酸、4000ドル割れも

### 原料の供給改善など

セバシン酸の国際市況が1ヶ当たり4000ドルを割り込む可能性が出てきた。新型コロナウイルス流行による中国以外の自動車減産で、日米欧を中心に実需が縮小。主産地中国で各社の稼働率が

引き上げられたこともあって、供給がだぶつき気味となっている。原料ヒマシ油の相場が踊り場を迎えていることもあって、市況は当面停滞すると予想されている。セバシン酸は中国の供

給が大半を占め、ヒマシ油の供給をインドに依存している。インドではロックダウン（都市封鎖）により数カ月間ヒマシ油供給が停止。セバシン酸は一時5000ドル近くまで跳ね上がった。しかし、ロックダウン緩和で初夏から原料供給が改善するとセバシン酸の買いが縮小。中国勢が稼働率を引き上げたもの

の、コロナ禍で日欧米などが自動車を減産した。これにより4000ドルを割り込む可能性が出ている。ヒマシ油は前季収穫分の在庫が消化し切れていないようだが、売り惜しみなどで小幅高となった。しかし、今季分の収穫が年末から始まるため上値が重くなるとみられる。

# ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他( )

2020 年 11 月 5 日 担当者: 榎野

## 電子機器企業に出資

サカタ  
インクス 電材分野で協業体制

サカタインクスは、電子機器製造装置メーカーに出資すると発表した。ディスプレイ材料など次世代エレクトロニクス関連事業への本格参入を目指すもので、出資先が持つIH（電磁誘導）リフロー装置などの技術を活用。電子機器受託生産（EMS）事業を担う関連会社を含め、電子材料分野における協業体制の構築と新規事業の立ち上げを目指す。

IHリフロー装置の開発・販売・EMS事業を手がけるワンダーフューチャー（東京都千代田区、福田光樹社長）に出資し、持分法非適用の関連会社とする。出資額は非公開。同社は2013年の創業で、従来のハンダリフロー技術に代わり得るIHリフローの実装技術を持つ。従来法とは異なる非

接触溶融が可能で、PETフィルムや紙などの非耐熱基材やガラス基板への電子部品実装を実現するという。

同技術は関連会社のインクスが主戦場とする車載・電子機器向け部品製造と親和性が高く、活用を通じて3社の協業体制を構築する。サカタインクスが開発したハンダ原材料などを供給する体制を構想しており、フレキシブルディスプレイなどの成長市場をターゲットとする新規事業の立ち上げを目指す。